

# 名戸ヶ谷ビオトープだより

第22号

2006年12月1日

名戸ヶ谷ビオトープを育てる会発行

<http://nadogaya-biotope.org/index.html>

発行責任者： 篠崎 将 Tel/Fax: 04-7173-6353

## 白と秋の風物詩が色を添えた収穫祭



4回目となる収穫祭は11月4日(土)、11:30 から、名戸ヶ谷ビオトープの木村さんの敷地の一角で開催されました。当日は天候にも恵まれ、穏やかな日となりました。朝の9時頃から早々と準備作業に参加された会員の手助けを得て、名戸ヶ谷小からの貸借物の運搬・設営に始まり、増田さんの協力により前日に洗米処理した赤飯の炊飯を手始めに、今年は白での餅つきも行いました。

献立は5種類の味の餅、3種類の味のバーベキュー、影山夫人が準備した不耕起米のおにぎり、増田さん労作のお赤飯、そして今年はそれに東北の秋の風物詩でもある芋煮も試してみました。本場山形の「牛肉と醤油」をベースに具材は「里芋・豆腐・こんにゃく・大根・しめじ・

葱」を加えた一品。味の評価は食べてから？

やがて準備も整い、会長の音頭で宴が始まりました。料理と適度のアルコールも加わり、懇談の輪がいくつにも広がり、刈り取りの終わった田んぼの風景も宴に花を添えているように見えました。芋煮の評価は人それぞれ。30人+扶養家族の皆様楽しんで頂き、今年の収穫祭は午後一時半頃に無事閉会となり、参加者全員にはお土産としてパック入りのお赤飯まで用意されました。また、今回の収穫祭でも、会員の多くのご夫人からお手伝いを頂きました。そのことを含めて、みなさんのご協力に感謝いたします。

(収穫祭実行委員長 窪田孝志)



### ひとくちインタビュー 初参加の方々から聞きました

- とても楽しい (伊藤武夫さん)
- 非常に楽しかった(藤平さん)
- たべものが多すぎて楽しい (千葉さん)
- 子どもに還ったみたいで楽しいです(佐藤夫人)
- みんなで働けて楽しいです(窪田夫人)
- ここで収穫したものを屋外で食べるのは美味しい。和気あいあいがとてもいい。(家族4人で参加の宮本さん)
- 楽しい会であることをもっと人に知らせ、人と人のコミュニケーションを大切に育てたい。自然環境を守ることを通してコミュニケーションが破壊された人間関係をよくしていくことが大事。(藤井さん)



ビオトープを見に行ったことはありましたが、今度初めて維持活動をおやりになっているの方々のお顔を拝見しました。みなさん、とても明るい方ばかりでした。柏の自然を守っていく上でこのビオトープはとても大切な役割を果たしていると思います。今後ともがんばって下さい。餅と赤飯ごちそうさまでした。(児玉哲秀)

# 校庭にはじける歓声

—名戸ヶ谷小ふれ合いの集い

10月21日(土曜)。快晴とは言えないが、まずまずの日和に恵まれ、名戸ヶ谷小の校庭にはテントが立ち並び、児童・父兄・先生達、それにビオトープの会員で賑わいました。ビオトープの会員は7時30分から集合し、主として餅つきの準備を始めました。当日のメニューは児童たちが泥まみれになって田植え・草取りまで手掛けた無農薬の新米で搗いたお餅の他、お握り、じゃがバターなど。児童たちはかまど係り・餅つき係りなど、幾つかの役割分担が決まっていたようですが、薪を燃やしたことなど殆ど無い児童たちは火力を保つのに苦労していました。



やがて、蒸しあがって蓋をとると、集まってきた児童たちは、吹き上がる蒸気に「ワー ご飯の匂いだ!」と歓声を上げていました。お餅はお母さん達の手で、あんこ餅・きなこ餅などになり、みんなに振舞われましたが、自分たちが苦労して育てたものを自分たちで食べる喜びが児童たちにとってよい思い出となって欲しいものです。

(村川 五郎)

## ひとくちインタビューより

- かまど係りをしたけど熱かった。餅はうまいね(5年男)
- 杵が重すぎた。大変だった(5年男)
- 餅つきは見かけより難しかった(5年男)
- コメの多いところを搗くと、コソソとならないでベチョソとなった(5年男)
- ついた時の感触が気持ちよかった。スポッ!という音がして(5年男)
- 幼稚園での経験があるけど、餅つきはタイミングが難しい(5年女)
- 黄な粉係りをしたけど、みんな美味しいと云うので嬉しかった(5年女)
- 大変だけど楽しい(醤油餅係り、6年女)
- お餅は美味しかったです。それにオムスビも。(5年児童の母親)



## わら細工学習報告

—名戸ヶ谷小学校にて

10月12日(木)の午後、名戸小5・6年生対象の「わら細工学習会」(縄跳び用の縄作り)が名戸小校庭で行われ、ビオトープ会員たちが児童たちの学習を支援しました。まず、支援リーダー影山さんが美しく絞った見本の縄を基に、下準備(袴除き・湿らせ・藁打ち)を終えた藁を使って縄縷いに取り組みました。藁を足で押さえながら小さな掌で縄を「絞う」のはなかなか難しかったようです。(外川 克之)



### 名戸ヶ谷ビオトープを育てる会年次総会のお知らせ

日時：2007年(平成19年)1月20日(土) 午前10時~11時

尚、11時より「ビオトープの生きもの」の上映会があります

会場：柏市環境ステーション(南部第二清掃工場内)大ホール(3F)

# 秋の生態系調査

10月30日に柄澤先生ご指導の下、秋のビオトープ生態調査を行いました。秋は春と比べ、落ち着いた様子のビオトープですが、バッタ類をはじめとして多くの生きものを確認することができました。

水の中の特徴としては、カダヤシの稚魚がビオトープのほぼ全域でたくさん確認できました。モツゴ(写真下)やスジエビなど春に確認できた生きものも再度確認できましたが、全体的な割合としては少なくなっています。残念ながらメダカは今回確認できませんでした。

バッタの仲間では、ショウジョウバッタモドキ(写真上)をビオトープでは今回初めて確認することができました。千葉県レッドデータブックで一般保護生物(Dランク)に指定されており、柏市内でも最近見かけることが少なくなっているようです。比較的湿ったイネ科の草の生えている草地に生息している、大きくても4cmのショウリヨウバッタに似たバッタです。多分今までいたものを見つけれなかっただけでしょうが、ビオトープの仲間が増えたことをうれしく思います。(松清 智洋)



## 合同作業日の報告

### ビオトープの草刈



10月14日は気持ちよい秋晴れで、まさに作業日和でした。会員9名がゴミ拾いと草刈に参加しました。前回刈り取った枯れ草の片付け、道路わきの雑草刈り、子どもたちの釣り場を広げるためのガマ刈りなどが主な作業で、2時間弱で終わりました。終わった後は、恒例のお茶のみ談義に花が咲きました。ビオトープも秋の花の咲き頃でした。ミゾソバの群生が見事に花をつけ、水田の畦にはカントウヨメナが沢山咲いていました。(佐々木光正)

## ホタル遮光ネット

### カルガモ日記

私達は人様がカルガモと呼ぶ名戸ヶ谷界隈をネジロとする鴨のカップル。最近うちのダンナとよく話すんだけど、なーんか棲みにくくなったと思わない？環境が悪くなったよね。でもね、ここビオトープって云うの？エサが増えたわよねー？それに時々朝早くから何だかオジサン達がネット張ってくれたおかげでプライバシーが守られたし、安心して子作り出来ちゃうわ！

—横倉 稔—



# ビオトープの生きもの



## ヒメアカタテハ タテハチョウ科

アカタテハよりひとまわり小型で25~33cm。貴婦人と呼ばれる。北海道から南西諸島まで見られるが、越冬できるのは関東以西である。暖かいところでは幼虫で越冬する。移動性に富み、ヨーロッパからアフリカ大陸に海を渡って大移動することも知られている。日本では5月から11月頃まで見られるが、数は少ない。食草はハハコグサ、アザミ、ヒメジョオン、コスモス、ヤグルマギクなど。雄雌とも班紋色彩の差はなく、雌の翅はやや幅が広いが区別は難しい。



## ツマグロヒョウモン タテハチョウ科

分布は図鑑によると三重県以西と書いてあるが、地球温暖化のためか、ナガサキアゲハと同様に、関東地方でも見られるようになった。年4~5回発生する。平地から丘陵地で6~10月に見られる。幼虫でも冬を越すが、暖地に限られている。食草はスミレ類だが、コスモス、アザミ、セイタカアワダチソウなどで吸蜜する。大きさは27~38cm。雄は前翅の先の白色及び黒紫がない。ホームセンターD2の花売り場でも見かけた。(篠崎 将)

## 不耕起水田に滋養分を補給

10月9日(月)。秋晴れの下、押し切りで切った切藁と糠約80kg、鶏糞20kgを散布しました。今年は散布した切藁や糠が流れないで土壤によく馴染むように水落としした状態にして散布しました。また、稲掛け用パイプの撤去と倉庫整理も行いました。(影山賢三)



## 手賀沼ふれあいウオークでもビオトープ展

11月19日(土)。冬を思わせる寒い朝。名戸ヶ谷ビオトープからは篠崎会長、窪田さん、広報から1名の計3名が参加。寒さに震えながら展示を設営。3つ折の「ビオトープ案内」と「ビオトープだより」も用意。ウオーク出発の9:30頃から予報通りの冷たい秋雨。そのせいか、参加者は例年と比べて目だって少ない。

子どもたちに遊びを教えに参加したボランティアの学生たちも手持ちぶさたな表情。ケンダマを手に、秋雨に無残に打たれるシートを虚ろな目で眺めている。それでも、外川ご夫妻、佐藤夫人、高田さんもブースに立ち寄り、他にも知人の顔を見かける。まさに、ここは出会いの場。名戸ヶ谷ビオトープを知る人が増えてきたことを実感する。雨がひどくなり、午後一時半にブースを畳んで帰る。(広報編集部)



編集後記：収穫祭も終わったビオトープは大掃除を残して一見冬枯れの季節。しかし、植物も小さな生きものたちも密やかな活動を怠ることはない。そしてビオトープ会員も。「うららかな春は厳しい冬のとて来る。可愛らしい蔭のとうは霜の下で用意された」。前号に続いて未登場の会員に原稿をお願いしました。新鮮な感覚のレポートに感謝です。なお、広報誌掲載の写真でご希望があればメール送信します。ご一報ください。広報編集部(春山)